

「世界農業遺産」につながる営みについてのアンケート結果

滋賀県では、琵琶湖の伝統漁業である「エリ漁」や、湖魚が琵琶湖からやってきて産卵・繁殖する「魚のゆりかご水田」、琵琶湖の環境や生きものを守る「環境こだわり農業」や水源林保全など、滋賀の風土と歴史の中で生み出されてきた「琵琶湖と共生する農林水産業」を、世界に誇るべき「琵琶湖システム」として発信しており、2019年の2月には「日本農業遺産」として認定され、現在は、国連食糧農業機関(FAO)で審査を受けており、コロナ禍により遅れている海外の審査員による現地審査を待っているところです。

こうした「世界農業遺産」認定につながる滋賀ならではの営みや環境配慮の取組について、アンケート調査を実施しました。

なお、「世界農業遺産」など「琵琶湖システム」の内容については、下記URLを御覧ください。
<http://www.pref.shiga.lg.jp/biwako-system/index.html>

★調査時期:令和4年1月

★対象者:県政モニター296人

★回答数:241人(回答率 81.4%)

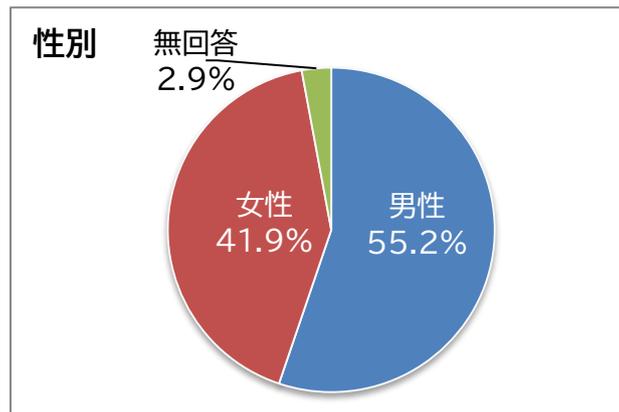
★担当課:農政水産部農政課

(※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。)

【属性】

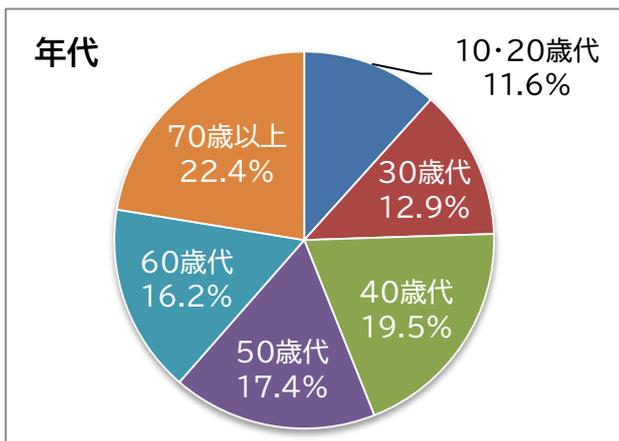
◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	133	55.2%
女性	101	41.9%
無回答	7	2.9%
合計	241	100%



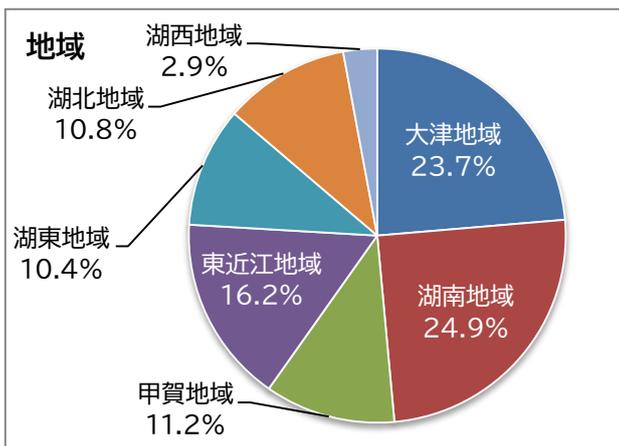
◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	28	11.6%
30歳代	31	12.9%
40歳代	47	19.5%
50歳代	42	17.4%
60歳代	39	16.2%
70歳以上	54	22.4%
合計	241	100%



◆地域

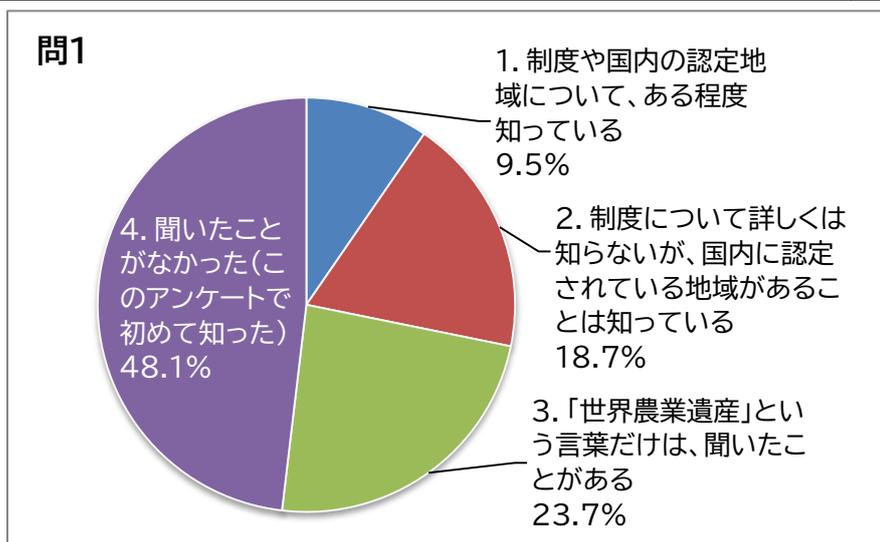
項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	57	23.7%
湖南地域	60	24.9%
甲賀地域	27	11.2%
東近江地域	39	16.2%
湖東地域	25	10.4%
湖北地域	26	10.8%
湖西地域	7	2.9%
合計	241	100%



問1 「世界農業遺産」は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形作られてきた伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれてきた文化・景観・生物多様性などを一体的なシステムとして国連食糧農業機関が認定する制度です。

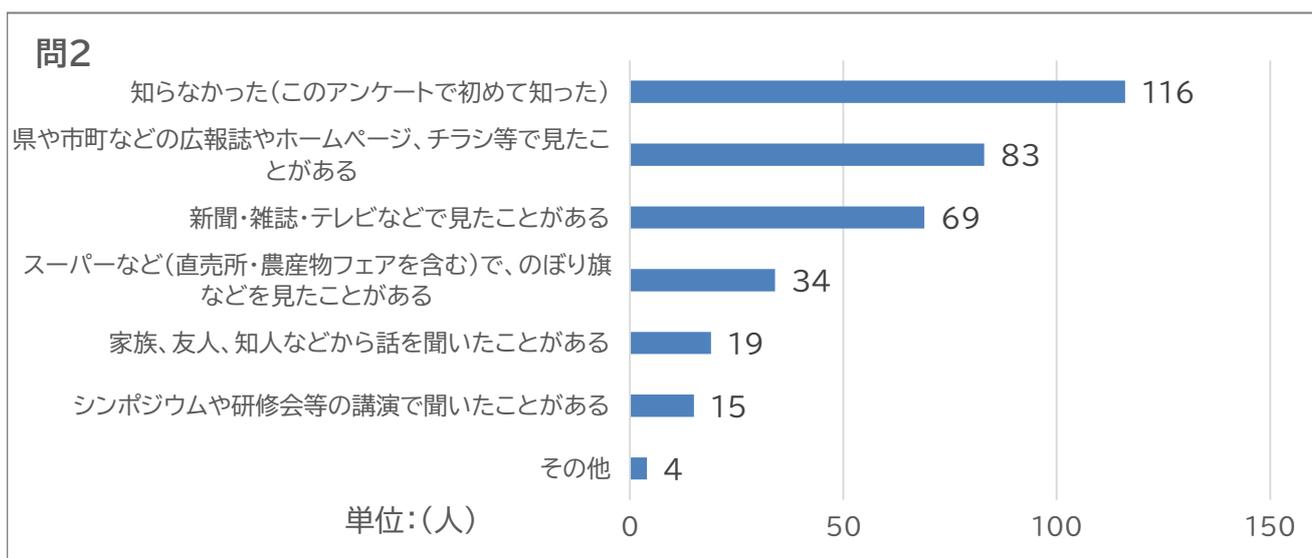
この「世界農業遺産」の制度や認定地域について知っていますか。(回答チェックは1つだけ n=241)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 制度や国内の認定地域について、ある程度知っている	23	9.5%
2. 制度について詳しくは知らないが、国内に認定されている地域があることは知っている	45	18.7%
3. 「世界農業遺産」という言葉だけは、聞いたことがある	57	23.7%
4. 聞いたことがなかった(このアンケートで初めて知った)	116	48.1%
合計	241	100%



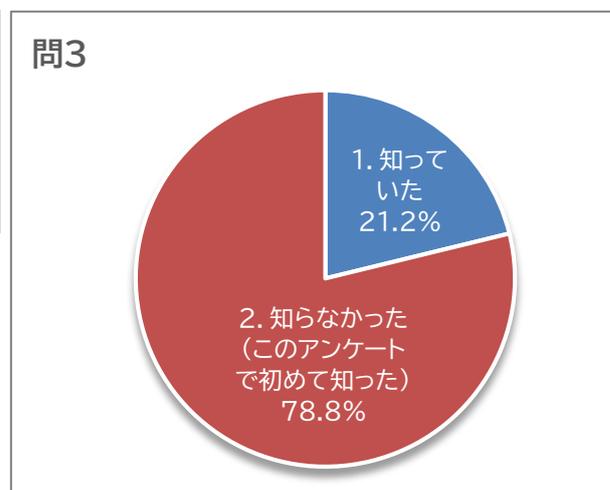
問2 滋賀が目指している「世界農業遺産」では、「えり漁」などの伝統的な琵琶湖漁業や「ふなずし」などの食文化、さらに「環境こだわり農業」や「魚のゆりかご水田」、水源林の保全活動を含む環境にやさしい農林水産業を「琵琶湖システム」として、国内外に発信し、地域の活性化につなげたいと考えています。
 こうした「世界農業遺産」の認定につながる営みについて知っていますか。(回答チェックはいくつでも n=241)

項目	人数(人)	割合(%)
知らなかった(このアンケートで初めて知った)	116	48.1%
県や市町などの広報誌やホームページ、チラシ等で見たことがある	83	34.4%
新聞・雑誌・テレビなどで見たことがある	69	28.6%
スーパーなど(直売所・農産物フェアを含む)で、のぼり旗などを見たことがある	34	14.1%
家族、友人、知人などから話を聞いたことがある	19	7.9%
シンポジウムや研修会等の講演で聞いたことがある	15	6.2%
その他	4	1.7%



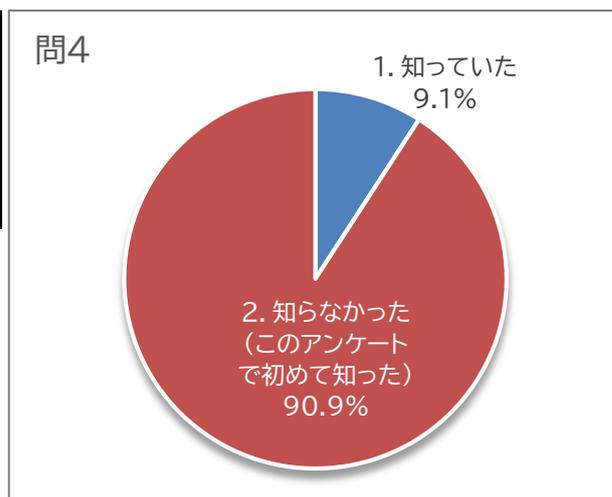
問3 「琵琶湖システム」が、「日本農業遺産」に認定されたことを知っていましたか。(回答チェックは1つだけ n=241)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っていた	51	21.2%
2. 知らなかった(このアンケートで初めて知った)	190	78.8%
合計	241	100%



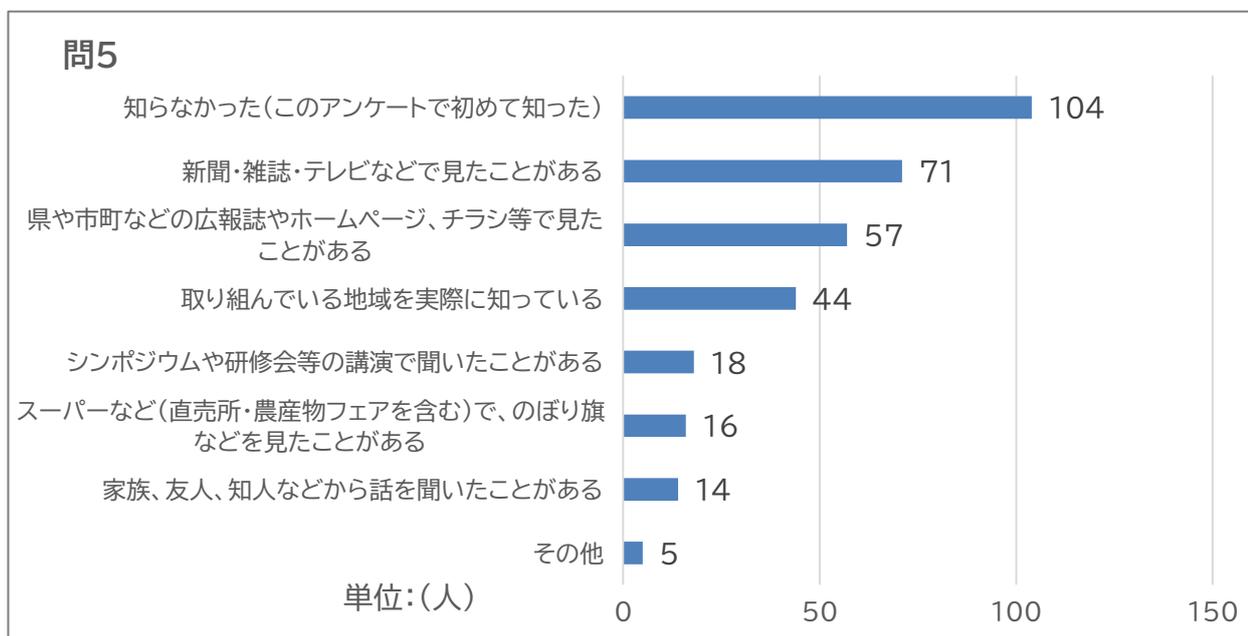
問4 「琵琶湖システム」のロゴマークが作成されていることを知っていましたか。(回答チェックは1つだけ n=241)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っていた	22	9.1%
2. 知らなかった(このアンケートで初めて知った)	219	90.9%
合計	241	100%



問5 「魚のゆりかご水田」は、琵琶湖の魚が遡上・産卵・成育できる水田のことで、かつては琵琶湖周辺でごく普通に見られました。現在では、水路に魚道を設置して親魚の遡上を助け、水田で生まれた稚魚が琵琶湖に帰るまで大切に見守りながらお米を栽培されています。この「魚のゆりかご水田」について知っていますか。(回答チェックはいくつでも n=241)

項目	人数(人)	割合(%)
知らなかった(このアンケートで初めて知った)	104	43.2%
新聞・雑誌・テレビなどで見たことがある	71	29.5%
県や市町などの広報誌やホームページ、チラシなどで見たことがある	57	23.7%
取り組んでいる地域を実際に知っている	44	18.3%
シンポジウムや研修会等の講演で聞いたことがある	18	7.5%
スーパーなど(直売所・農産物フェアを含む)で、のぼり旗などを見たことがある	16	6.6%
家族、友人、知人などから話を聞いたことがある	14	5.8%
その他	5	2.1%

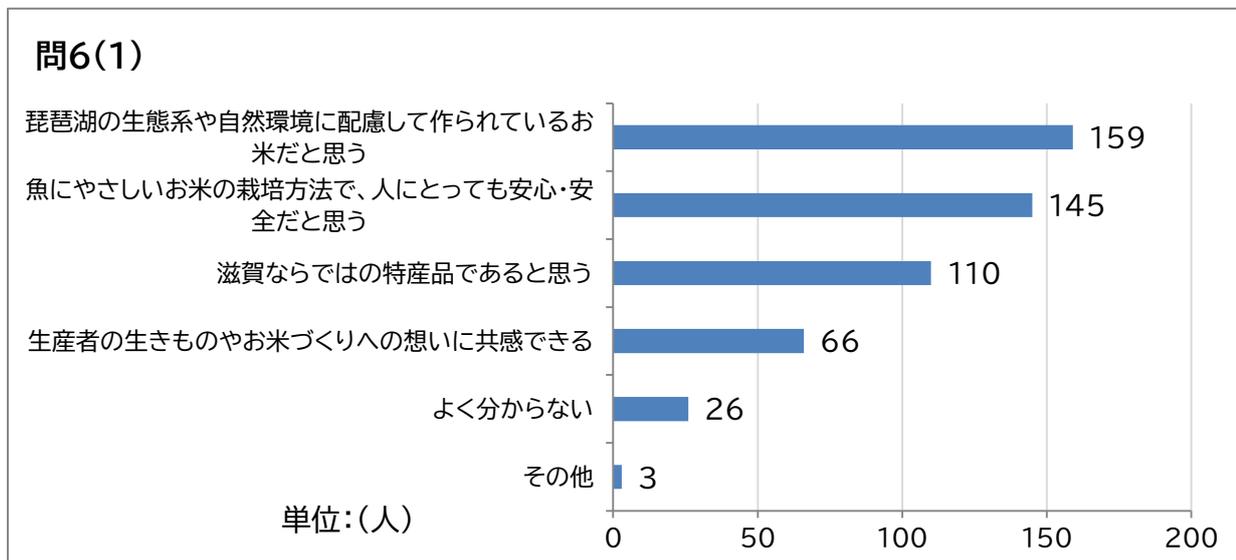


問6 「魚のゆりかご水田」で収穫されたお米「魚のゆりかご水田米」は、農薬や化学肥料を減らす等手間ひまかけて栽培された、環境や生きものにもやさしいお米です。

この「魚のゆりかご水田米」について持たれたイメージと購入等についてお尋ねします。

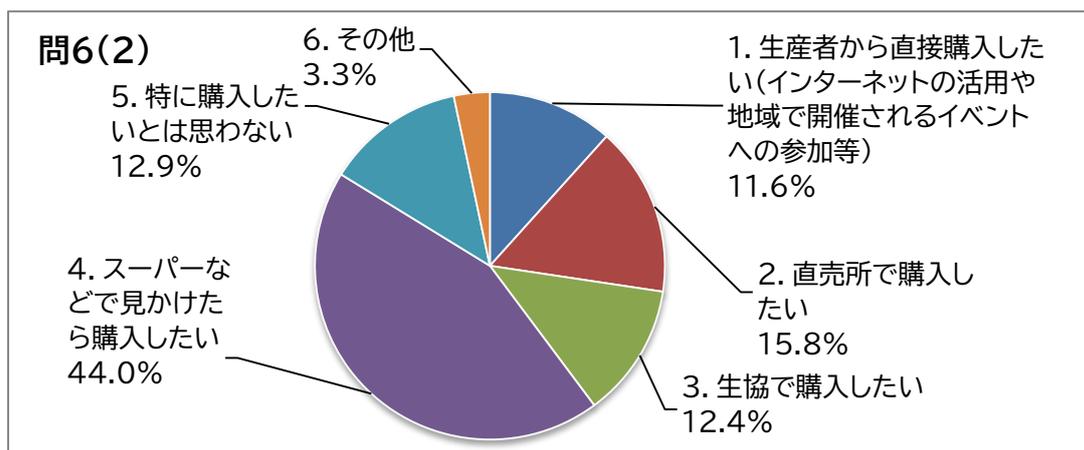
(1)イメージについて(回答チェックは3つまで n=241)

項目	人数(人)	割合(%)
琵琶湖の生態系や自然環境に配慮して作られているお米だと思う	159	66.0%
魚にやさしいお米の栽培方法で、人にとっても安心・安全だと思う	145	60.2%
滋賀ならではの特産品であると思う	110	45.6%
生産者の生きものやお米づくりへの想いに共感できる	66	27.4%
よく分からない	26	10.8%
その他	3	1.2%



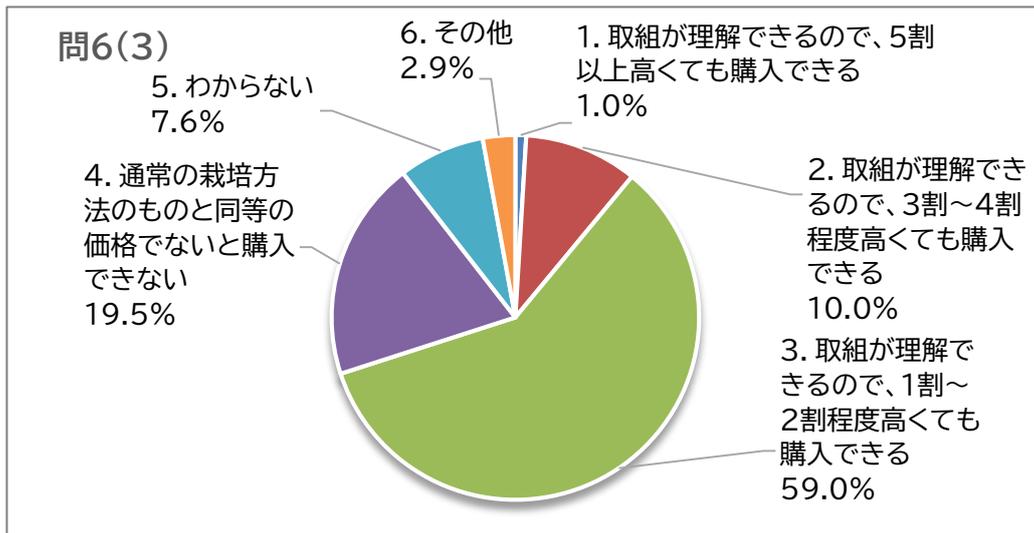
(2)購入について (回答チェックは1つだけ n=241)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 生産者から直接購入したい(インターネットの活用や地域で開催されるイベントへの参加等)	28	11.6%
2. 直売所で購入したい	38	15.8%
3. 生協で購入したい	30	12.4%
4. スーパーなどで見かけたら購入したい	106	44.0%
5. 特に購入したいとは思わない	31	12.9%
6. その他	8	3.3%
合計	241	100%



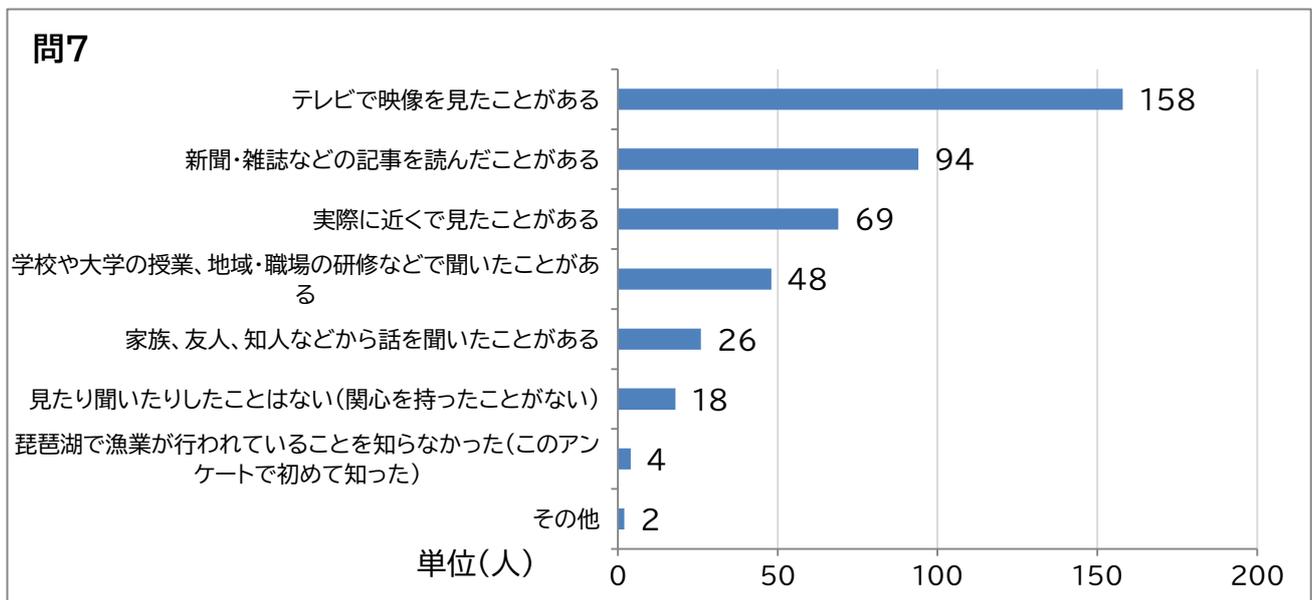
(3)「魚のゆりかご水田米」の価格について(回答チェックは1つだけ n=210)
 上記(2)で「5. 特に購入したいとは思わない」以外を選択された方にお尋ねします。
 魚のゆりかご水田米は、SDGsの目標15(陸の豊かさを守ろう)の取組にあてはまります。環境との調和を図り、農家がそのために手間をかけて生産されたお米の価格について、最も当てはまるものを1つ選択してください。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 取組が理解できるので、5割以上高くても購入できる	2	1.0%
2. 取組が理解できるので、3割～4割程度高くても購入できる	21	10.0%
3. 取組が理解できるので、1割～2割程度高くても購入できる	124	59.0%
4. 通常の栽培方法のものと同等の価格でないと購入できない	41	19.5%
5. わからない	16	7.6%
6. その他	6	2.9%
合計	210	100%



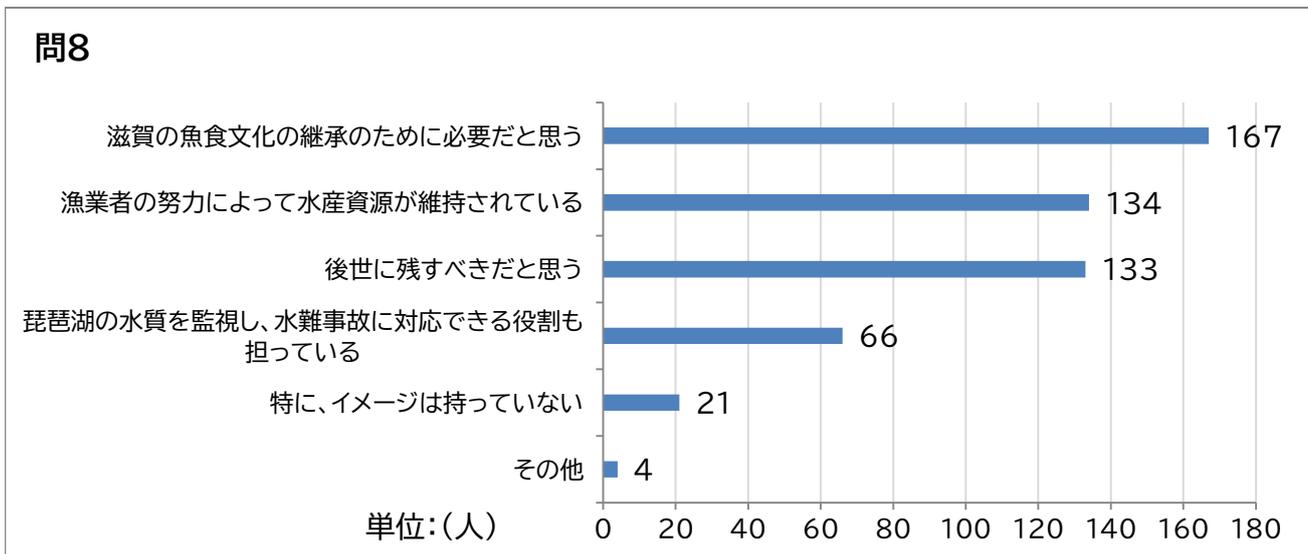
問7 琵琶湖で行われている漁業について、見たり聞いたりしたことがありますか。(回答チェックはいくつでも n=241)

項目	人数(人)	割合(%)
テレビで映像を見たことがある	158	65.6%
新聞・雑誌などの記事を読んだことがある	94	39.0%
実際に近くで見たことがある	69	28.6%
学校や大学の授業、地域・職場の研修などで聞いたことがある	48	19.9%
家族、友人、知人などから話を聞いたことがある	26	10.8%
見たり聞いたりしたことはない(関心を持ったことがない)	18	7.5%
琵琶湖で漁業が行われていることを知らなかった(このアンケートで初めて知った)	4	1.7%
その他	2	0.8%



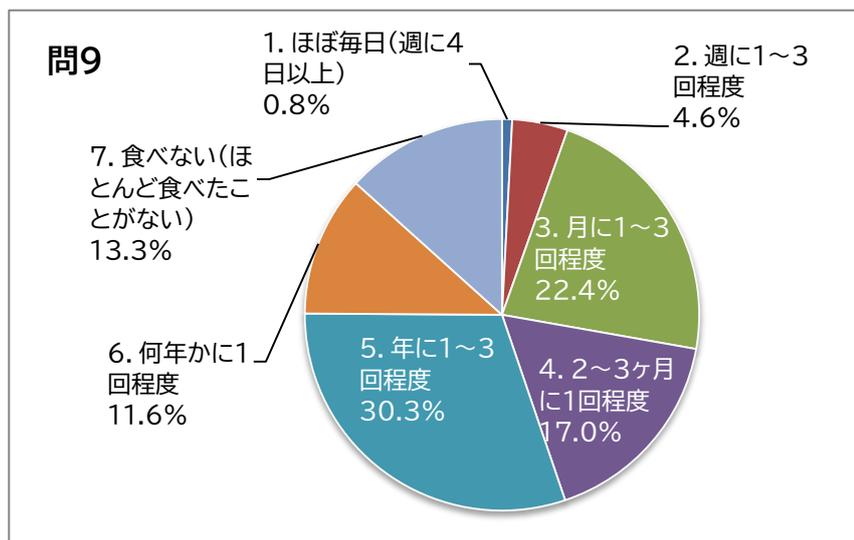
問8 琵琶湖の漁業は、豊かな生態系の中で縄文時代から受け継がれてきています。この琵琶湖で行われている漁業について、あなたのイメージを次の中から選択してください。(回答チェックは3つまで n=241)

項目	人数(人)	割合(%)
滋賀の魚食文化の継承のために必要だと思う	167	69.3%
漁業者の努力によって水産資源が維持されている	134	55.6%
後世に残すべきだと思う	133	55.2%
琵琶湖の水質を監視し、水難事故に対応できる役割も担っている	66	27.4%
特に、イメージは持っていない	21	8.7%
その他	4	1.7%



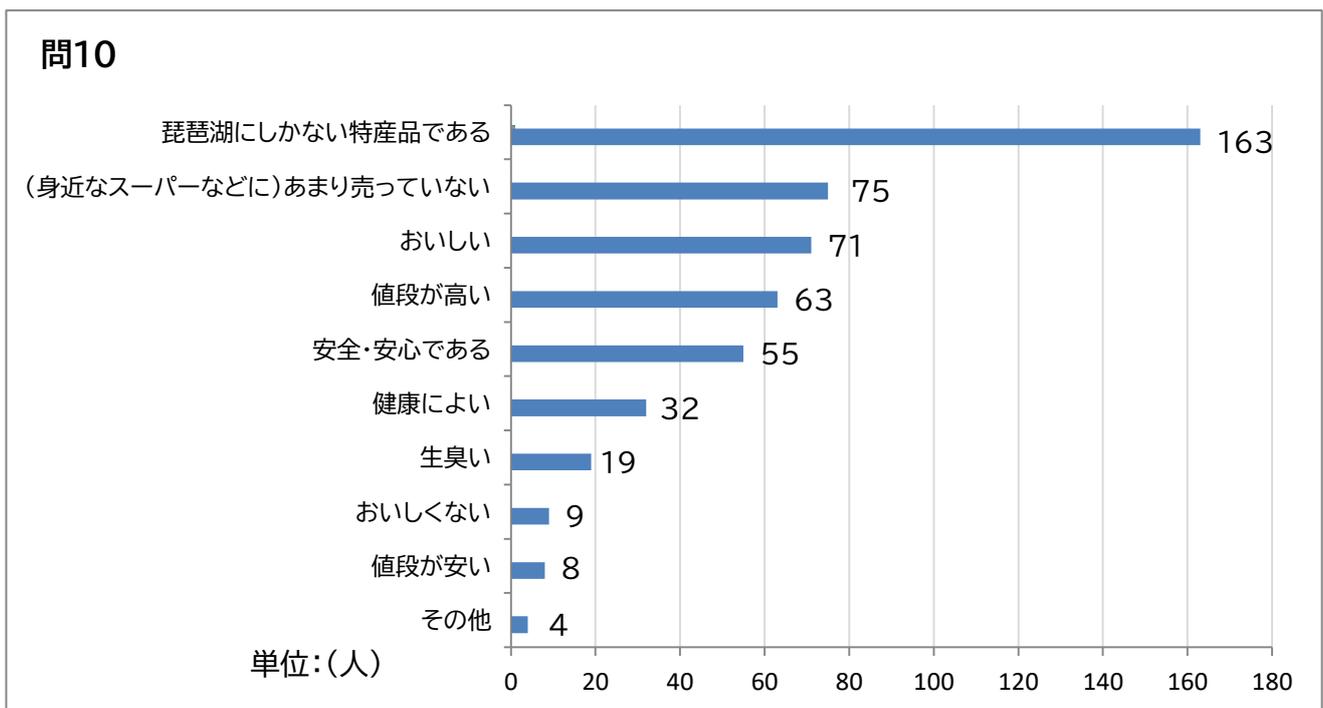
問9 琵琶湖の水産物(魚や貝)を食べる頻度について、最もあてはまるものを次の中から選択してください。(回答チェックは1つだけ n=241)

項目	人数(人)	割合(%)
1. ほぼ毎日(週に4日以上)	2	0.8%
2. 週に1~3回程度	11	4.6%
3. 月に1~3回程度	54	22.4%
4. 2~3ヶ月に1回程度	41	17.0%
5. 年に1~3回程度	73	30.3%
6. 何年かに1回程度	28	11.6%
7. 食べない(ほとんど食べたことがない)	32	13.3%
合計	241	100.0%



問10 「琵琶湖の水産物(魚や貝)」のイメージについて、次の中から選択してください。(回答チェックは3つまで n=241)

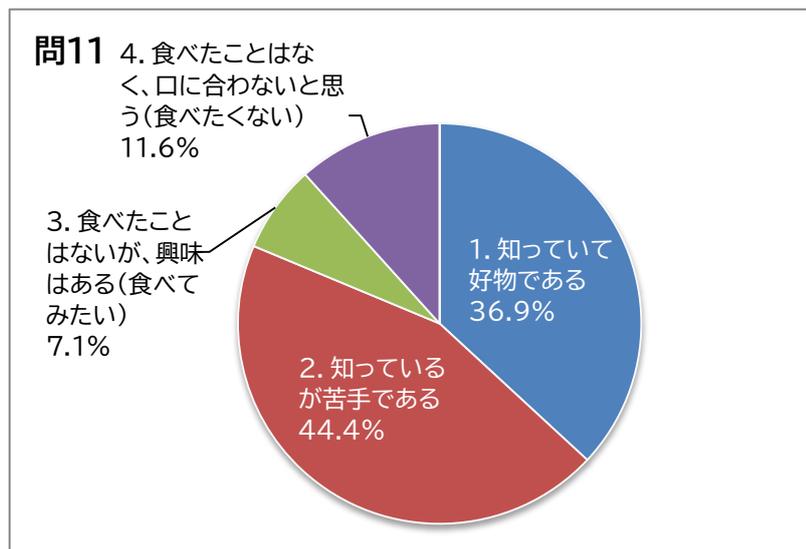
項目	人数(人)	割合(%)
琵琶湖にしかない特産品である	163	67.6%
(身近なスーパーなどに)あまり売っていない	75	31.1%
おいしい	71	29.5%
値段が高い	63	26.1%
安全・安心である	55	22.8%
健康によい	32	13.3%
生臭い	19	7.9%
おいしくない	9	3.7%
値段が安い	8	3.3%
その他	4	1.7%



問11 「ふなずし」は、千年以上の歴史を持ち、保存食として、また贈答品や神社への供え物として用いられています。

この滋賀県の伝統食「ふなずし」を知っていますか。最もあてはまるものを選択してください。(回答チェックは1つだけ n=241)

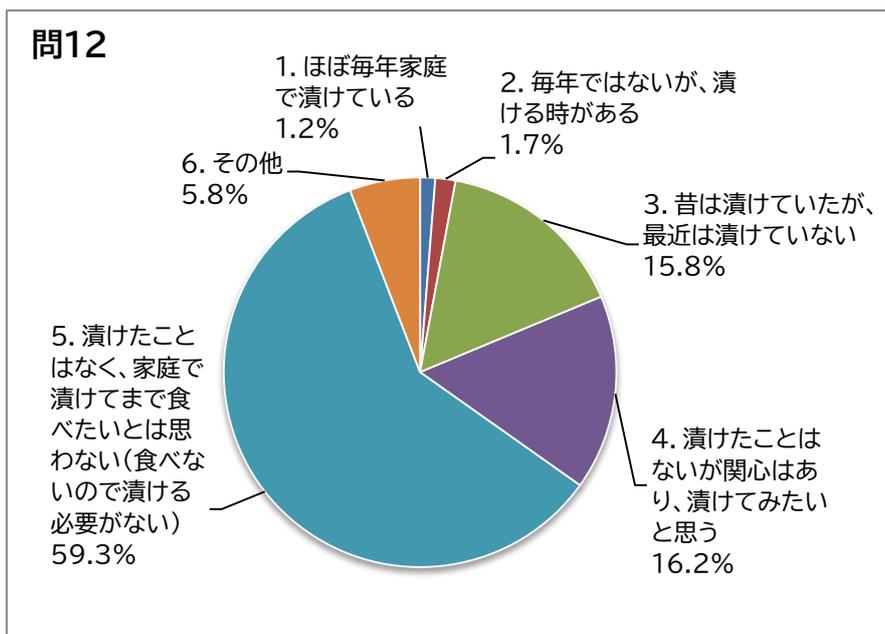
項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っていて好物である	89	36.9%
2. 知っているが苦手である	107	44.4%
3. 食べたことはないが、興味はある(食べてみたい)	17	7.1%
4. 食べたことはなく、口に合わないと思う(食べたくない)	28	11.6%
5. 「ふなずし」について全く知らなかった(このアンケートで初めて知った)	0	0.0%
合計	241	100%



問12 かつて県内では、多くの家庭で「ふなずし」が漬けられていました。近年は、独特の香りを抑制する簡易な漬け込み手法が普及してきています。

「ふなずし」を御家庭で漬け込む状況等について、最もあてはまるものを次の中から選択してください。(回答チェックは1つだけ n=241)

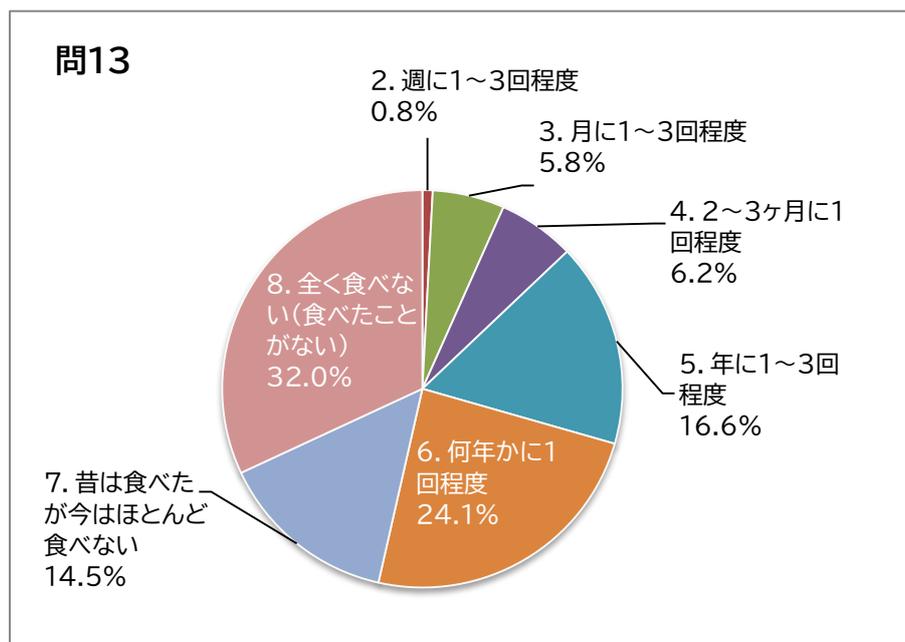
項目	人数(人)	割合(%)
1. ほぼ毎年家庭で漬けている	3	1.2%
2. 毎年ではないが、漬ける時がある	4	1.7%
3. 昔は漬けていたが、最近は漬けていない	38	15.8%
4. 漬けたことはないが関心はあり、漬けてみたいと思う	39	16.2%
5. 漬けたことはなく、家庭で漬けてまで食べたいとは思わない(食べたくないなので漬ける必要がない)	143	59.3%
6. その他	14	5.8%
合計	241	100%



問13 「ふなずし」などのナレスシ(※)を食べる頻度について、最もあてはまるものを次の中から選択してください。(回答チェックは1つだけ n=241)

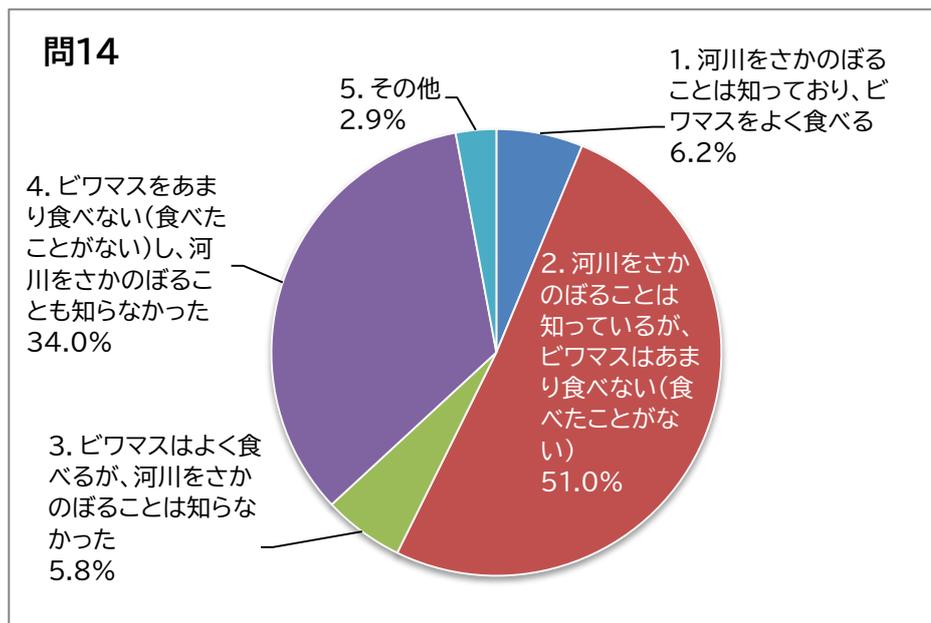
※ナレスシ・・・魚を塩と米飯で乳酸発酵させた寿司

項目	人数(人)	割合(%)
1. ほぼ毎日(週に4日以上)	0	0.0%
2. 週に1~3回程度	2	0.8%
3. 月に1~3回程度	14	5.8%
4. 2~3ヶ月に1回程度	15	6.2%
5. 年に1~3回程度	40	16.6%
6. 何年かに1回程度	58	24.1%
7. 昔は食べたが今はほとんど食べない	35	14.5%
8. 全く食べない(食べたことがない)	77	32.0%
合計	241	100%



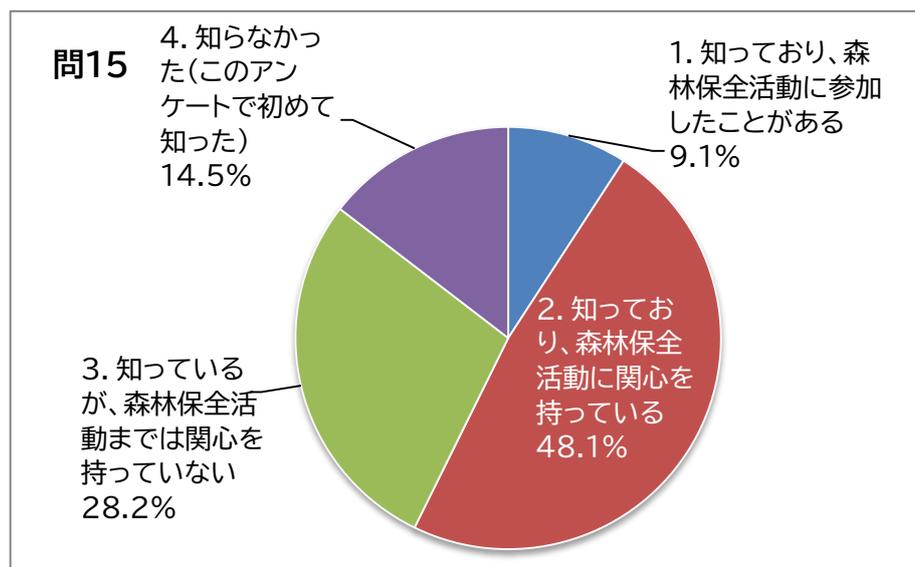
問14 琵琶湖で漁獲されるビワマスは、産卵のために河川を数十キロもさかのぼります(遡上)。近年、このビワマスがさかのぼる河川環境を整えるための活動が、各地で行われています。このビワマスの遡上について、次の中から選択してください。(回答チェックは1つだけ n=241)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 河川をさかのぼることは知っており、ビワマスをよく食べる	15	6.2%
2. 河川をさかのぼることは知っているが、ビワマスはあまり食べない(食べたことがない)	123	51.0%
3. ビワマスはよく食べるが、河川をさかのぼることは知らなかった	14	5.8%
4. ビワマスをあまり食べない(食べたことがない)し、河川をさかのぼることも知らなかった	82	34.0%
5. その他	7	2.9%
合計	241	100%



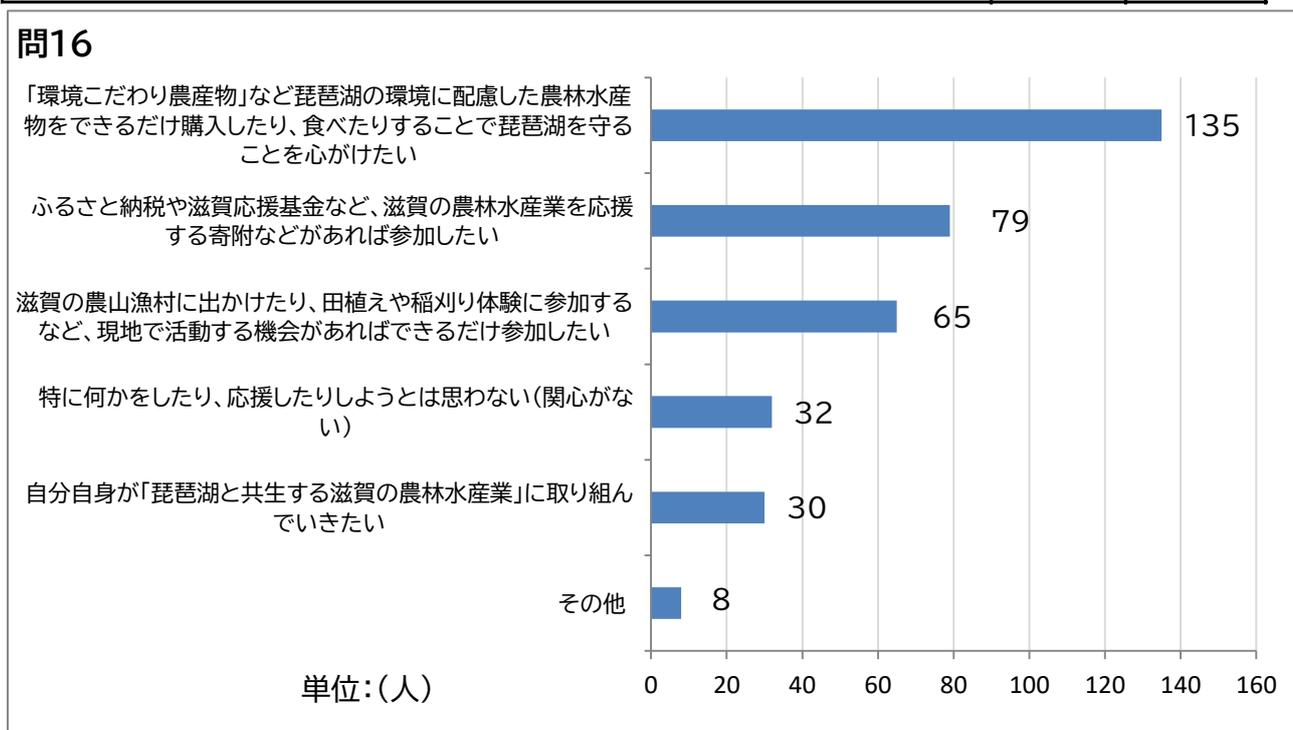
問15 森林には、雨水を吸収して一時的に蓄え、徐々に河川に送り出すことによって洪水を緩和する水源涵養(すいげんかんよう)の機能があります。このことは、問14に記載しているようなバイオマスなどの生態系保全にもつながっており、こうした機能を発揮するうえで、植林や間伐などの森林を保全する営みが重要な役割を果たしています。森林が持つこのような多面的な機能や森林保全活動について知っていますか。(回答チェックは1つだけ n=241)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っており、森林保全活動に参加したことがある	22	9.1%
2. 知っており、森林保全活動に関心を持っている	116	48.1%
3. 知っているが、森林保全活動までは関心を持っていない	68	28.2%
4. 知らなかった(このアンケートで初めて知った)	35	14.5%
合計	241	100%



問16 世界農業遺産の認定につながる「琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業」に関して、御自身で何かできることをしてみたい、できれば応援したいと思いますか。(回答チェックはいくつでも n=241)

項目	人数(人)	割合(%)
「環境こだわり農産物」など琵琶湖の環境に配慮した農林水産物をできるだけ購入したり、食べたりすることで琵琶湖を守ることを心がけたい	135	56.0%
ふるさと納税や滋賀応援基金など、滋賀の農林水産業を応援する寄附などがあれば参加したい	79	32.8%
滋賀の農山漁村に出かけたり、田植えや稲刈り体験に参加するなど、現地で活動する機会があればできるだけ参加したい	65	27.0%
特に何かをしたり、応援したりしようとは思わない(関心がない)	32	13.3%
自分自身が「琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業」に取り組んでいきたい	30	12.4%
その他	8	3.3%



問17 その他、世界農業遺産の認定につながる「琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業」について御意見や応援メッセージがありましたらお聞かせください。(任意)(一部抜粋)

○環境を守るためにも、子どもたちの健康を守る上でも景観のためにも、良いことしかない取り組みだと思う。推進するのは大変かもしれないが、頑張って取り組みを続けてほしい。そうすることで滋賀県のイメージも県民の肯定感も上がると思う。

○琵琶湖の豊かな自然に育まれた農林水産物は滋賀県民にとって宝であり、県民の一人として活動を何らかの形で支援していく必要がある。

○滋賀＝琵琶湖のイメージを持っている人も多いので琵琶湖と共生する農林水産業は滋賀の農林水産業をアピールしやすいと思う。

○琵琶湖の美しさに惹かれ、他府県から移住して来た。琵琶湖を含む美しい自然の存続と維持、そして山林の崩壊による災害を防ぐ取組に敬意を表したい。今後も県民こぞって参加実践できるよう進めていただきたい。

○滋賀県で林業や漁業の担い手が不足しているという報道を見ました。子どもが長浜の大学で学んでおり、課外活動で滋賀の山や琵琶湖に行き、その素晴らしさを感じているようです。若い世代にこういった魅力を伝える機会がさらに増えると良いと思います。

○消費者として出来るだけ生産者の労に報いるようにしたいが、振り返ってみてもほとんど役に立っていないのでこれからは少しは貢献したいです。

○世界農業遺産の事は全く知りませんでした。認定されると滋賀県の地域住民にどんなメリットが有るのか知りたいです。

○知人が、魚のゆりかご米を栽培されて表彰されたと聞きました。今回のアンケートで具体的なことを知ることができました。滋賀県として自慢できるものだと思います。エビ豆もとても美味しいです。県民にももちろん、県外にも滋賀の農産物をアピールして欲しいです。

○生活する滋賀県なので、世界農業遺産登録されると嬉しいですね。ただ県民へのPRがあまりないのでもっと活動をして欲しいですね。県民モニターなどを上手に起用して地域での活動に協力してもらおう等。

○県での棚田保全活動のボランティア募集のチラシを先日見ました。滋賀の環境に関わる農産物や水産物を積極的に購入することと併せてこういった活動にも参加して行き、応援するだけよりも少しでも携わって行きたいと考えるようになりました。活動の広報に感謝します。

○今回アンケートで初めて世界農業遺産という言葉/取組を知りました。最近、より健康に関心を持った事で(草津あおばな館)や(守山おうみんち)で地産モノを購入するようになりました。消費者の購入動向以外に解決していくべき課題を是非共有して頂きたい。

○滋賀県は、豊かな自然に恵まれた素晴らしい環境を有しています。しかし、環境に配慮された米づくりが行われているとはいうものの、農薬や化学肥料も結構使用されているようです。トンボやカエルなど身近な生き物も目に見えて減りました。農林水産業の後継者が不足している現状では、ギリギリ現状の環境維持というところでしょうか。未来につづく暮らしを遺していくために、物質に頼った豊かさよりも身の回りの暮らしに根ざした環境の豊かさに一人ひとりが目を向けて、考えていかねばならないと思います。

○山あり、川あり、湖ありと素晴らしい滋賀県に住んでいることに、まずは感謝なくしてはいけないと思います。

往古の時代から「山川湖」のおかげで特に滋賀県は生業ができていました。時代の変遷とともに失われた「山川湖」を、今真剣に取り組んで後世につなぐことが、我々に課せられた責務だと思っています、行政がもっと指導力を発信して欲しいと思います。

○安全や環境の為に森林保全やゆりかご水田米など必要だとも思います。そのためには、県が率先してその事業を助けねばならないと思います。

○世界農業遺産の認定、応援しています。今まで、関心がなかったというか、知らなかったと言うほうが当たっていますが、アンケート調査の中に、いろいろと細かく説明が付いていてとても関心を持ちました。

○今回のテーマについては、滋賀県立大学大学院の近江環人講座で習っていることです。習う前は、ほとんど知らなかったのもっと広報をして取り組みを広めて欲しい。

○世界農業遺産の認定につながる「琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業」については、彦根城の世界遺産登録同様、滋賀県民としてぜひとも積極的に応援し、ふるさと納税などでも選択肢をもっと広げてアピールしていくべきである。

○世界農業遺産に関する知識を持っていないので、その価値があまり理解できませんが、登録されることによって琵琶湖の自然環境が継続して改善・保持されていく機会になるのであれば応援したいと思います。私は滋賀県民から広く募金・寄付などを募り県民の財産でもある「琵琶湖と取り巻く自然環境を守って、次世代に繋ぐ」活動をすべきと思います。SDGsの観点からも、地球温暖化を抑制する観点からも非常に大事な活動かと思います。県・市町村が強い発信をして進めていくべきかと思います。

○滋賀に引っ越してきて3年になり、滋賀に興味がありますが、このアンケートで出てきた内容のうち、鮎寿司以外の情報を全く知りませんでした。そんな素晴らしい取り組みが行われていて、取り組まれている方々の努力をもっともっといろんなメディアから発信してほしいです。知りたいです。若い人は今であればインスタやYouTubeから情報を獲得することが多いので、そういうところからも発信してほしいです。

○コロナ禍ということもあり、なかなか体験の機会を増やすことは難しいと思いますが、子供の頃の経験は大人になってから根底に残ります。甲賀市は琵琶湖から一番と言っていいほど離れており、馴染みがありませんが、滋賀県の誇りとしての琵琶湖にて体験学習がもっとあればと思います。うみの子だけではなく。

○素晴らしい取り組みだと思います。「琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業」とは、農作業(自宅の畑等)で具体的に何をすれば良いのか、知りたい。そのための行動リストがあれば知りたい。

○世界農業遺産に認定されれば、素晴らしいことであるし、関係者の大いに励みになると思います。関連商品の購入で、応援したいと思います。